

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター



【本 部】
城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【関目教室】 城東区関目 4-6-172F・3F TEL.06-6934-8117
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467
【高殿教室】 城東区成育 5-22-10-2F TEL.06-6786-1008	【カイチ予備校】 城東区今福西 1-10-17 TEL.06-6935-2220
【エニグマ】 中央区谷町 9-4-5-3F TEL.06-6777-1563	【万緑会】 天王寺区上本町 6-9-10-3F TEL.06-6772-5011



高木 秀章(塾長)

おめでとうございます。
そして本当にお疲れ様でした。

すっかり春めいて過ごしやすい気候になりました。今日、鶴見緑地を散歩していると桜が満開。青い空に桜が映えて一層きれいでした。



▲鶴見緑地の桜。空の青色に映えてきれいです。

長かった受験も、先日3月20日の公立高校の合格発表を最後にようやく終わりました。今年度の公立高校受験者は137名。そのうち、トップ10校合格者は過去最高タイの31名、その他、大阪公立大学工業高専に1名、寝屋川に3名、八尾に8名など合計109名が合格しました。

受験生とご家族の皆さん、おめでとうございます。そして本当にお疲れ様でした。

皆さんにとってこの1年間は決して楽ではなかったと思います。3月の入試説明会に始まり春期講習、1学期はクラブがまだあるにも関わらず、定期テスト勉強の合間に中1・中2復習用の受験テキストを宿題で出され、ようやくクラブを引退すると夏期講習。学校の宿題も多いうえに、塾の宿題。そして合格点が取れるまで終わらない山ほどの小テスト。クラブの引退が遅れた生徒は、とにかく隙間時間に遅くまで自習に来て頑張りました。2学期からは文理学科講座や受験対策講座が始まり、私立決定の材料に使われる11月実力テストに向けての猛勉強。年末年始は冬期講習で追い込まれながら、各自の私立赤本に取り組みました。そして、私立受験前の1月末から始まった毎週土曜日の公立大予想模試。毎週、毎週合否が出され、現実を突きつけられ続けました。

ほぼ全員がこの厳しいメニューをクラブと両立して頑張りました。私は10月・11月の追い込み時期に、中3クラスを担当する機会が数回ありましたが、みんなの明るさとほぼ初対面の私にも熱心に質問する姿勢が印象的でした。本当にみんな最後まで自分に負けずにやり抜きました。

石橋 瑞葵(諸口教室)

験本番で急に読めなくなったかもしれないと思うと、ゾツとする恐ろしい結末になったであろうと、後になって気付きました。「あの時英語が読めなくなったのは神様が与えてくれたチャンスだった」そう思うことができたのです。

志望校に合格するために勉強していく中で、数えきれないほどの困難が皆さんの前に立ち塞がることと思います。「私こんなに頑張ってるのに。」「周りの子は伸びてるのに自分だけなんで?」たくさん悔しい思いをして、私のように涙が溢れることもあるかもしれません。でも、皆さんのその時その場面での思いは、全て必ず意味があります。神様は人間のことを割とよく見えていて、その人それぞれに今必要なものを与えてくれるのです。そしてそれは、今はマイナスだとしても、くさらず投げ出さず向き合えば、いつか必ずプラスになると気付ける時が来ます。神様からの贈り物にまずは気づくことができるのか、そして大切に受け止められるのか、無駄にしてしまうのか、それは皆さんの行動にかかっています。そういう意味で、受験というイベントが皆さんの人生にとってプラスになるように、落ち込んだ時にはこの話を思い出してくれたら嬉しいです。

代)ではありますが、「どうしてもこの大学にいきたい」「自宅から通える国公立にしたい」などの理由から、「もう1年頑張る」という選択をされる方たちです。

今年、カイチ予備校、エニグマあわせて高3生は82名。このうち、ほとんどの方は大学進学をされますが、残念ながら納得する結果でなかったため、浪人の決断をされた方が3名おられます。「両親が医師をしているので自分も絶対に医学の道に進みたい」という方、「もう一度京都大学にチャレンジしたい」という方たちです。同級生たちが大学進学を決めていく中、つらい決断だったと思います。教室としても、全員を大学に送り出せなかったということは本当につらいことです。来年の吉報を待つことしかできません。

浪人生と言えば、今年、カイチ予備校で嬉しいことがありました。昨年、残念ながら志望校に合格できず、浪人生活を送っていた富村琴葉さんが、「京都大学に合格しました」と報告にきてくれました。しかも、さらに嬉しいことに、カイチ予備校のチューターに加わってくれることになりました。1年間長く努力してきた富村先生が、後輩たちに勉強に取り組み姿勢を伝えていくくれることと思います。



▲福井先生から研修を受けている富村先生

終わりに

色々違いはありますが、高校受験にしろ、大学受験にしろ、大きな目標に向かって努力することは、必ずその子の人生の糧になります。ひたむきに頑張っているカイチ生に最後まで寄り添っていきたいと感じる毎日です。

COLUMN: 先生紹介

神様は人間のことを割とよく見えていて、
その人それぞれに今必要なことを与えてくれる

たことを本当に嬉しく思っています。

突然ですが、皆さんは神様を信じますか?(宗教の勧誘ではありません笑)私は神様を結構信じる派(笑)、というか、信じるようになりました。

小学6年生になる春、1ヶ月後にピアノのコンクールを控えていた私は右手薬指を骨折してしまいました。絶望の淵に立たされた気分でしたが、とりあえずできることをやろうと、私は治るまでの2週間左手だけを猛練習しました。幸い右手は完治し無事に迎えた本番、審査員のコメントシートでは、なんとメロディーラインではなく左手の伴奏を高く評価していただいたのです!「神様はあの時、左手の練習が必要だと私に教えてくれたんや!」そう

思いました。これが、私が神様を信じるようになったきっかけでした。

ここからは高校3年生の時のお話です。憧れの某国立大学を目指して私は毎日必死に勉強していました。共通テストまで残り1ヶ月をきった時、私は突然、まるで何かに取り憑かれたかのように、得意だったはずの英語が読めなくなりました。長文をなぞる指だけがどんどん速くなり、頭は置いてけぼりで内容が全く入ってこないのです。正答率はこれまでの半分以下になりました。原因不明のスランプにメンタルはポロポロにやられ、悔し泣きが止まらない毎日でした。すると私の異変に気付いてくださった予備校の先生が、わざと必要以上に時間をかけてゆっくり読むリハビリを教えてくださいました。私は言われるがままに、ひたすらゆっくり英語を読み続けました。すると、だんだんと焦らず英文を読めるようになり、むしろ以前より正答率も上がってきたのです。そして試験本番、英語では納得のいく点数をとることができました。

もしこのスランプを経験していなかったら、私は長文を焦らず落ち着いて読む練習をすることのないまま、共通テスト、さらに国立大の試験に挑んでいたことになります。試

対島の
ちょっと
TEACHER'S VOICE 対島 広史(カイチ予備校蒲生校・諸口校、エニグマ)

大学受験と高校受験の違い



Growingを読んでもらわれる中学生の方は、これから高校受験を経験され、さらに大学受験も経験される方も多いと思います。今回は、高校受験と大学受験の違いについて、3つの面からお伝えします。

エリア

高校受験は、一部の例外を除き、基本的にはその地域(公立高校ならその都道府県)での競争になります。例えば、高津高校を受験するのは、大阪府内の人になります。

これに対して、大学入試は日本全国の競争です。毎年、面談の時期になると「同じ旧帝大だが、北海道大学と九州大学ではどちらが通りやすいか?」「福島県立医大の対策法は?」「理Iと京大情報はどちらが難しい?」「企業からみた時の関関同立とMARCHの評価はどういう位置関係?」というような質問を受けることになり、全国の大学情報を調べまくる日々です。

「生まれてからずっと大阪にいるけれど、初めて他の土地に行く」という決断もあり得るのが大学入試なのです。逆に、他の土地の人が関西の大学を受験しにくることもあります。「札幌北高校出身の人が、関西の大学を受験する」ということもあり得ます。



偏差値

偏差値をご存知でしょうか。そう、模擬試験を受けると帰ってくる、あの悪名高いヘンサチです。一般に、同じ学力の人が模擬試験を受けた場合、高校受験向けの模試で出てくる偏差値と、大学受験向けの模試で出てくる偏差値は、後者の方が低くなります。これは、偏差値が母集団によって計算される数値だからであり、ほぼ学年の全体

が受験する高校受験と異なり、大学受験では学力上位の人が多くなる傾向があるため、「偏差値が出にくい」ということになります。

具体的な例で注意点をあげると、四條畷高校の模試でのボーダーは偏差値70。京都大学総合人間学部の模試でのボーダーは偏差値69くらいで出てくることが多いのですが、四條畷高校の人はほとんど京大に通るかと言うとそんなことはありません(実際は、少なくとも上位1割に入っていないとなかなか合格できません)。大学受験の模試における偏差値は、高校受験とはだいぶ感覚が違う、ということを知っておきましょう。

浪人生の割合

「浪人」という言葉があるのはご存知でしょうか。残念ながら不合格になった受験生がもう1年勉強して、来年、再度チャレンジする、というものです。

高校受験においては、よほどのことがない限り浪人という決断をされる方はいません。私立高校だと回し合格の制度(出願したAコースでの合格は無理でも別のBコースなら合格という制度)があったりしますし、「万が一不合格の場合はその後の日程で別の高校に出願しよう」という戦略を綿密にたてたりします。中3生の方は、塾の面談ではこのあたりの相談を丁寧に行うこととなります。正しい受験情報を知っていて、この戦略を上手に立てられる、というのが塾の先生のウヅの見せどころでもあります。今年、カイチの中3生の人数は209名ですが、全員、無事高校生になりました。塾として「全員合格おめでとう」と言えるのは、絶対に達成せねばならない目標で、毎年この目標をクリアできているのはうれしいことです。

これに対して、大学入試では、一定の割合で「浪人」を決断される方がいます。少子化で大学全入時代(どこの大学でもよければ、全員がどこの大学には入れる時

カイチからの
お知らせ

- 中学英検第1タームを4月7日(金)～4月28日(金)で実施します。
- 4月11日(火)・4月24日(月)は小学部休講日です。
- 4月19日(水)は全コース休講日です。
- 中学中間テスト模試を4月20日(木)～4月25日(火)に実施します。
- 小学診断テストを4月25日(火)・26日(水)に実施します。

Focus

CLASSROOM REPORT 教室レポート



小幡 翔太郎 (関目教室)

目標を持ち、成長する教室に!

こんにちは。春の訪れと共に、新しい出会いや再会を迎える季節がやってきました。関目教室でも、3月から4月にかけて多数の新入生が加わり、新しい気持ちでスタートを切っています。昨年から本格的にスタートした学童も2年目に入り、さらに活気が出ています。今回は、そんな関目教室の近況をお伝えします。

【中3】

中3生にとって大事なのが「目標を設定し、目標と実力とのギャップを埋めていくこと」です。関目教室では今年から、小学4年生以上の全クラスで「長期目標」と「中期目標」、「それを達成するために今すべきこと」を黒板に書き、授業を行っています。中3では目標を「志望校合格」「模試・実力診断テストで目標偏差値達成(B判定に達する偏差値)」に据え、中3の新規単元の学習と中1・中2の復習に取り組んでいます。3月に行われた入試説明会を終え、顔つきの変わった中3生。すべきことが明確になり、必要な勉強量がわかることにより、本当の意味での部活との両立が大変だということに気づいた生徒も多いようです。忙しく、物理的な時間が足りないときには、切り替え・優先順位をつけることが大切。メリハリのために、塾の自習室を活用する人も増えてきました(平日・土曜はいつでも使えます)。入試までの残り11か月(私立まではもう10か月!)を、一緒に頑張っていきたいと思います!



▲凸凹コンビで生徒の皆さんを全力でサポートします!

【中2】

中2生は、「志望校合格(そもそも見つけ

る)」「中間テストでの自己ベストを更新する」を目標に設定し、日々の学習に取り組んでいます。中2から、特進・標準クラスに編成され、新しいクラスでのスタート。中1入学時と比べ、ハードなスケジュールにも慣れてきた様子で、よく頑張っています。特に中2旭東の陸上部の3人は部活で大変な中、毎日塾に来て、宿題や授業中に解ききれなかった問題に取り組む、成績を伸ばしています。中だるみになりやすい学年ですが、目標を意識しながら、入試に向け力を蓄えていきましょう。



▲よく自習に来る中2生。帰りに事務室に来て、アメをねだって帰ってきます(笑)

【中1】

小学校を卒業したばかりで、まだあどけなさも残る中1クラスですが、慣れない授業時間帯に苦勞しながらもよく頑張っています。中1の目標は「志望校を見つける」「中間テストで450点取る(数学・英語は満点!)」に設定しています。数学の時間には「それで満点取れるのか〜!」と小幡による叱咤激励(?)も飛び交う中、みんな不理解箇所をツブそうと一生懸命。時には雑談しすぎて脱線することもあります。メリハリをつけながら、初めての定期試験に向けて頑張っています。



▲中間テスト450点を目標に、頑張っています!

【小学部】

小学部での目標は「正しい学習習慣・メリハリをつけられるようになること」「4月の診断テストで順位表に載る(載っている子は、さらに上位を目指す!)」です。まずは毎日の授業を集中して聞き、わからないところは質問して、出た宿題をメモし、きちんとしてくる。当たり前のことですが、これがきちんとできる子は伸びます。年度頭には姿勢が崩れがちだった小4クラスの子も、日を追うにつれてきちんと座れることが増えてくると、子供達も日々成長しているな〜、と感じています。

【パスカルキッズ・トーキングキッズ・珠算】

パスカル・トーキングキッズ・珠算クラスは、昨年度から始まったかいち学童の生徒もたくさん通塾しており、生徒数も増え活気に満ちています(パスカルはすでに満員で、予約待ちも出ています)。

珠算クラスでは「上位級への合格」、トーキングキッズでは「英検合格」に向けて日々頑張っており、生徒数も増え活気に満ちています。パスカルでは、みんな脳みそをフル回転させて問題に取り組んでいます。

年に3回のお菓子交換目指して(!?)一緒に頑張っていきたいと思います!



▲タングラムで脳みそフル回転!

具体的な目標を持ち、現状との差を認識し、対策を決め、実行する。当たり前のことですが、私自身、できていない時も多いです。教室目標も、個人目標も達成できるように、みんなと一緒に成長していきたいです。関目教室、そしてカイチ生の皆さん、一緒に頑張りましょう!

Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育



坪田 陽一 (教務長)

公立入試を振り返って

今回は3月10日に行われた公立高校入試について、先月号の私立高校入試に引き続き、坪田がまとめてきたいと思います。

まずは全体的な話から。2023年度入試の全体の倍率は1.14倍。その中でも**トップ10校は平均1.41倍**。約3人に1人は不合格となる、相変わらず狭き門です。それ以外では、**春日丘高校が1.68倍**、東高校、今宮高校が1.47倍とかなりの高倍率となりました。

反面、**31校が定員割れ**となり、公立高校も2極化が進んでいます。私立高校の実質無償化の影響が大きいですが、それ以外にも、現在のニーズに合っていない学校、改革が進んでいない学校が定員割れを起こしている印象です。3年連続定員割れすると統廃合の対象ということですが、少子化の流れが止まらない現状では、特色を打ち出せない学校はどんどん淘汰されていくと思われます。

さて、カイチの公立高校合格者数ですが、5教室合計で計109名でした。

そのうち、**トップ10校の合格者数は過去最多タイの31名!** 2月の予想模試や後述する自己採点会の時点では、正直これだけの生徒が合格するとは予想せず、もっと厳しい結果を覚悟していました。生徒達が最後の最後まで本当に粘り強く頑張った、その上で起きた奇跡だと思っています。素晴らしい!

反面、倍率の高かった春日丘や東、また人気校である寝屋川等では不合格者が出ています。併願の私立高校を押さえて「チャレンジ受験」の子も多かったのですが、全員を第一志望に送せなかったことは事実。力不足を痛感します。この教訓を無駄にせず、また1年間新中学3年生を指導していきたいと思っています。

なお、今回は初の試みとして、**入試翌日に「自己採点会」を行いました。**



▲自己採点中

カイチ予備校に集まり、覚えている範囲で自分の解答を再現、模範解答で採点。記述問題については担当の先生が見ておおよその点数をつけます。先生達にとっては1年間の指導の成果が試される、緊張感あふれる時間でした。私達自身の指導を振り返り、進路指導においてもさらに精度を高めていくための貴重な記録となりました。来てくれた生徒の皆さん、本当にありがとう!

その後教室ごとに茶話会を行い、ビンゴ大会やじゃんけん大会をして大いに盛り上げました。生徒達もこれまでの鬱憤を晴らすかのようにおはしゃぎ!考えてみれば、コロナ禍で教室では9時間自習時の弁当の時間もなくなり、みんなでご飯を食べるという時間が無かったように思います。みんな本当にいい笑顔でした。

それでは今回の公立高校入試問題について、教科毎に分析していきたいです。なお英数国については、多くの受験生が解くこととなるB問題(標準)とC問題(発展)についてのみ触れます。



▲ビンゴ大会

国語

B問題は平年並みの難易度でした。作文は「国語が乱れていると思うか」というテーマに対して考えと理由を書くもの。例年のデータを読み取ってから記述する問題と比較すると、普段から考える機会が多いテーマであったので、書きやすかったのではないのでしょうか。

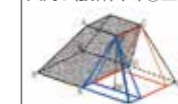
C問題は昨年よりやや難化したかと思います。大問1と大問4は相変わらず抽象度の高い文章が出題されて取り組みにくく、また80字~95字の記述問題も出題され、苦手な子はペースを崩されたかもしれません。ただ、なかには易しめの問題もあり、作文も「あなたにとって美しい日本語とは?」という問いかけに対し、データを見て答える問題で、きちんと対策してきた子にとっては比較的に取り組みやすいものでした。したがって、平均点は昨年とそれほど変わらなかったのではと考えられます。

数学

B問題は昨年より易化しました。過去問をたくさん演習していた子はスムーズに解答できたのではないのでしょうか。計算問題や一次関数の問題はとりやすく、得点源にしてほしいところです。一方で小問集合のところは問題文をよく読まない間違えるものもありましたので注意が必要でした。なお新指導要領の「箱ひげ図」も出題されました。その他、求め方を書く問題、証明問題など、記述問題については比較的書きやすかったのではと思います。

C問題については、昨年より少し難化した印象です。大問1は整数問題をきちんと得点源とできたかどうか、また関数の求め方を記述する問題では、文字の符号が負であることから、長さを+と表すことができたかがポイントでした。大問1をどれだけ落とさず確実に得点できたかが、今回の勝敗のカギではなかったかと思えます。大問2の平面図形の問題は証明がややこしく時間がかかったかもしれませんが、大問3はよく出る立体の相似かと思いきや、少しひねってあり難しい問題でした。ただしその中でも2問はとりやすく、正解しておきたいところです。

大問3(抜粋)(2)②立体ABCD—NOHの体積を求めなさい。



←立体を切断して三角柱と四角錐があることを見つけよう!

英語

B問題の難易度は平年並みでした。自由英作文が大問2に吸収されたので、大問数は減りましたが、全体の問題構成に変化はありませんでした。

C問題も、昨年度と大きく変わりません。ここ最近では文法1題、長文4題、自由英作文1題とリスニングという構成で、5年前(文法2題、長文6題、自由英作文1題とリスニング)よりも問題を減らされ時間内に解きやすくなっています。以前は英検2級で保証される点数(72点)を超えるのは困難でしたが、現在は、本番でその点数を超えてくる生徒も多くなっています。「2級を持っていれば大丈夫」ということではなくなりつつありますので、勉強時間の配分はきちんと考える必要があります。

文法では、新学習指導要領で高校から降りてきた「仮定法」「原形不定詞」「現在完了進行形」が、すでに当たり前のように出題されています。以前からよく出題される関係代名詞や、間接疑問文などのやや難しい単元も含め、各単元を普段からきちんと理解しておく必要があります。長文も時事ネタが採用されることが増えてきています。最

近日本で流行っているインドネシアの発酵食品ベンネを題材とした長文がB問題で出題され、C問題では歩きスマホが題材とされました。普段から、いろんな物事に関心を抱いていると長文も読みやすかったのではないかと思います。

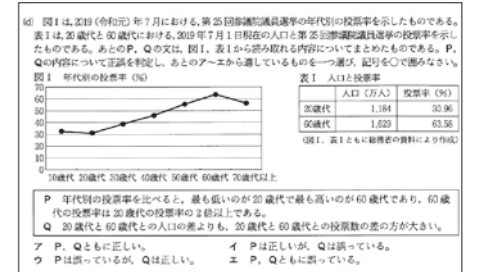
理科

例年よりもやや易化しています。問題文の総量はほぼ例年通りで、40分で全て解ききり、見直しまで行うには、「設問を先に読んで問題文中から必要な情報を探す」手順に慣れておく必要があります。設問自体は、基本的な語句や知識を問う問題が多く、記述問題も出題されなかったため例年よりも簡単でした。例えば大問1で「酵母菌とコウジカビのはたらき」について出題されましたが、きちんと問題文を理解し、ヒントとなる情報を捉えられたら問題なく解けるレベルでした。他も、問題文の中に分りやすくヒントや公式が書かれていたりしたので、それを見落とさなければ高得点が狙えたのではないかと思います。逆に言えば、理科の用語や公式をただ単に暗記するのではなく、きちんとその意味まで理解しておくような勉強が必要だということになります。普段から、仮に問題が解けていても、「なぜ?」と疑問に感じたらきちんと質問したり調べたりして解決するようにしていきましょう。

社会

難易度は昨年並み。公民分野がやや多めに問題されている印象を受けます。特徴的なのは、とにかく表やグラフなどの資料が多いこと。そしてその資料を正確に読み取って正誤を判定する問題(簡単な割合の計算も必要です)、読み取れたことを説明する問題など、単純に語句の暗記だけでは太刀打ちできない、思考力を問う問題が多いことです。また問題文や選択問題の選択肢でも、よく読まなければ間違えてしまうような複雑な出題をして、より正確な読解力も必要です。普段からそれぞれの語句の意味を掘り下げて理解しておくなど、より丁寧な学習を心がけるようにしていきましょう。

社会 大問2(抜粋)



↑問題文や資料を正確に読み取らなければ間違えます!

総評

このように、全体的には難易度は例年通りですが、「文章やグラフ、図表から必要な情報を素早く正確に読み取る力=読解力」を問う問題は年々増えてきています。そして、それらの情報と既知の知識を結びつけ、考えを深める「思考力」を問うような方向に、入試問題も今後磨かれ、変化していくことが予想されます。

新学3年生の皆さんは、もう「受験生」です。入試説明会でも触れたとおり、受験勉強ができる期間は限られています。1年後の入試を見据え、今回の記事を参考に、今できることに積極的に取り組み、「思考力」を磨いていきましょう!